

COVID-19 と子ども達の

外出行動

Research Project Report
COVID-19 and Going out
activities of Children

調査レポート



2020



1 16日 日本国内で初めて感染確認

30日 WHO「国際的な緊急事態」を宣言

3日 乗客の感染が確認されたクルーズ船 横浜港に入港

11日 WHO新型コロナウイルスを「COVID-19」と名付ける

13日 国内で初めて感染者死亡 神奈川県に住む80代女性

25日 政府感染拡大に備え「基本方針」を決定。厚労省「クラスター対策班」設置

27日 安倍首相 全国の小中学校に臨時休校要請の考え発表

9日 専門家会議 「3条件重なり避けて」と呼びかけ

10日 政府「歴史的緊急事態」に指定

3 11日 WHO「パンデミック」と告げる

19日 専門家会議「感染拡大地域では自粛」

24日 東京五輪・パラリンピック開催延期に

26日 政府 特措法に基づく対策本部設置

1日 首相 全国の世帯に布マスク配布の方針 専門家会議「医療現場機能不全も」

4 7日 7都府県に緊急事態宣言

11日 首相 7都府県の企業に「出勤者7割減」要請

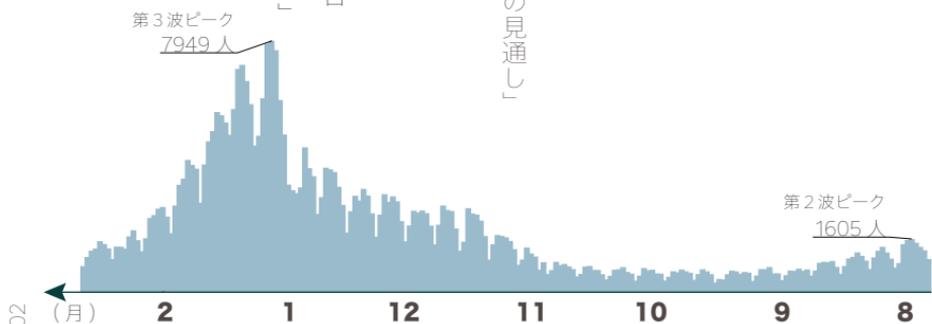
16日 緊急事態宣言全国拡大

16日 首相国民対象に一律10万円給付する考え表明

24日 「全国の小中学校、高校の9割が休校」文科省調査

2021

- 5月 4日 政府「緊急事態宣言」5月31日まで延長
- 14日 政府緊急事態宣言39県で解除8都道府県は継続
- 21日 緊急事態宣言関西は解除 首都圏と北海道は継続
- 25日 全国で緊急事態宣言解除
- 6月 2日 初の「東京アラート」都民に警戒呼びかけ
- 23日 環境省国立公園でリモートワークを推進
- 22日 「GOTOトラベル」キャンペーン始まる
- 7月 28日 国内の1日の感染者1000人超
- 8月 20日 対策分科会尾身会長「流行はピークに達したと見られる」
- 9日 5日 WHO「新型コロナウイルスのワクチン 分配開始は来年中頃の見通し」
- 11月 9日 世界の製薬会社など9社がワクチン開発で安全最優先を宣言
- 10日 政府分科会が緊急提言「急速な感染拡大の可能性も」
- 18日 米ファイザーがワクチンの有効性95%と発表
- 11月 20日 政府分科会「GOTOトラベル」見直しなど政府に求める提言
- 2日 日本医師会長「感染者がこれ以上急増すれば医療提供不可能に」
- 15日 GOTOトラベル全国一時停止へ
- 6月 6日 日本医師会中川会長「現実はずでに『医療崩壊』だ」
- 7日 菅首相「1都3県に緊急事態宣言」
- 13日 7府県に緊急事態宣言 合わせて11都府県に



参考 ・NHK 特設サイト 新型コロナウイルス 〈<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/>〉
 2021年3月11日閲覧
 ・西野達也：新型コロナウイルス感染症の公園における状況把握と今後の在り方に関する研究，
 2020年度日本大学理工学部建築学科卒業論文

はじめに

2020年に感染拡大したCOVID-19によって、さまざまな生活様式の変化が求められました。学校も休校措置がとられ、保育園などの子ども施設でも登園自粛が求められました。子どもの外遊びに関しても外出自粛の下に制限される状況が生まれました。

本調査は、2020年の緊急事態宣言期間中の最も厳しい状況において、子育て世帯がどのように子どもの外遊びを中心とした外出を制限し、また担保しているか、という点について明らかにすることで、未だ収束がみえない状況の中、子どもの外遊び環境のあり方について知見を得ることを目的として実施しました。

調査概要

アンケート調査は緊急事態宣言中の生活を把握することを目的に、2020年6月5日から7月15日の期間にオンラインで実施し、954件の方にご回答いただきました。

調査にあたっては、アンケートの概要を示したチラシを板橋区・練馬区の子育て世帯が利用する各施設へ掲示して頂きました。チラシの配布にあたっては、以下の方々にご協力をいただきました。

練馬区

- ・練馬区教育振興部学務課幼稚園係…区立幼稚園
- ・練馬区こども家庭部子育て支援課…児童館・学童クラブ
- ・練馬区民協働交流センター…集会所・区民センター
- ・光が丘第三アパート自治会
- ・区立保育園、私立保育園・幼稚園のうち許可をいただいた施設には直接配布しました。

調査は、練馬区と板橋区の子育て世帯（小学生以下の子どもを持つ世帯）を対象とし、「アンケート調査」と「インタビュー調査」を行いました。

調査実施にあたっては、多くの行政担当者、子ども施設、子育て世帯の方にご協力いただきました。

板橋区

・板橋区教育総務課…区立保育園・幼稚園
・子ども家庭部子ども政策課…子育て支援センター・児童館
・板橋区事務局地域教育力推進課あいキッズ係…あいキッズ
・私立保育園・幼稚園のうち許可をいただいた施設には直接配布しました。

直接配布させて頂いた施設の一覧は次頁の通りです。

インタビュー調査

はアンケートで得られた情報をより詳細に把握することを目的に実施しました。アンケート調査を通して協力の許可を得られた全31世帯を対象に、2020年9月2日から9月30日の期間にオンライン上でインタビューを行いました。

アンケートのチラシを直接配布させていただいた施設一覧

板橋区

私立保育園

あいあい保育園 赤塚六丁目保育園 旭保育園 明日葉保育園 蓮根園 大山保育園 かえて保育園 加賀保育園
志村さかした保育園 聖マリア保育園 つつじ保育園 成増保育園

私立幼稚園

赤塚幼稚園 松月院幼稚園 落合幼稚園 かごめ幼稚園 きよみ幼稚園 徳丸幼稚園 前幼稚園 みその幼稚園

練馬区

区立保育園

豊玉保育園 豊玉第二保育園 豊玉第三保育園 豊玉第四保育園 桜台保育園 桜台第二保育園 練馬保育園 貫井
保育園 貫井第二保育園 向山保育園 栄町保育園 石神井町つつじ保育園 石神井町さくら保育園 高野台保育園
下石神井第三保育園 谷原保育園 関町保育園 関町第二保育園 関町第三保育園 上石神井保育園 上石神井第二
保育園 上石神井第三保育園 石神井台保育園 石神井台第一保育園 南田中保育園 南田中第二保育園 富士見台
こぶし保育園 東大泉保育園 東大泉第二保育園 東大泉第三保育園 南大泉保育園 西大泉保育園 大泉学園保育
園 北大泉保育園 旭町第二保育園 土支田保育園 田柄保育園 田柄第二保育園 春日町保育園 春日町第二保
園 春日町第三保育園 高松保育園 光が丘保育園 光が丘第二保育園 光が丘第三保育園 光が丘第四保育園 光
が丘第五保育園 光が丘第六保育園 光が丘第七保育園 光が丘第八保育園 光が丘第九保育園 光が丘第十保育園
光が丘第十一保育園 北町保育園 北町第二保育園 平和台保育園 氷川台保育園 氷川台第二保育園 早宮保育園
大泉学園幼稚園 上石神井南幼稚園 北町カトリック幼稚園 向南幼稚園 さかえ幼稚園 石神井幼稚園 善福寺幼
稚園 善福寺第二幼稚園 浄風幼稚園 進幼稚園 清心幼稚園 関町ちぐさ幼稚園 高松幼稚園 田柄幼稚園 練馬
幼稚園 練馬白菊幼稚園 不二幼稚園 大泉学園幼稚園
練馬二葉保育園 アスク豊玉中保育園 アンジェリカ桜台保育園 にじのいるか保育園氷川台 光が丘わかば保育園
青い鳥保育園 なんこう保育園 エンゼルベア石神井保育園 あい保育園高野台 きららっこ石神井公園保育園 心
羽えみの保育園石神井台 いずみ保育園 大泉保育園 くりのみ保育園 妙福寺保育園 マーガレット保育園

私立幼稚園

私立保育園

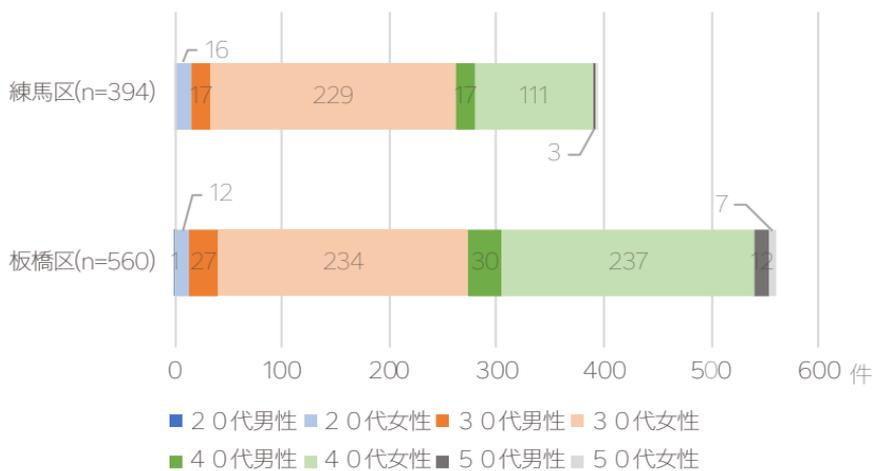
練馬二葉保育園 アスク豊玉中保育園 アンジェリカ桜台保育園 にじのいるか保育園氷川台 光が丘わかば保育園
青い鳥保育園 なんこう保育園 エンゼルベア石神井保育園 あい保育園高野台 きららっこ石神井公園保育園 心
羽えみの保育園石神井台 いずみ保育園 大泉保育園 くりのみ保育園 妙福寺保育園 マーガレット保育園

アンケート調査結果

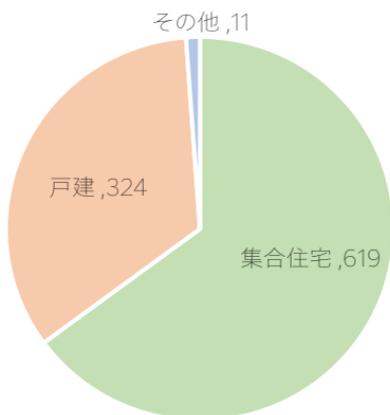
アンケート調査では、緊急事態宣言中の子育て世帯の暮らしの実態を把握するために、家族構成や、緊急事態宣言中の保護者の働き方、実際にどのようなところで外遊びを行っていたのか伺いました。

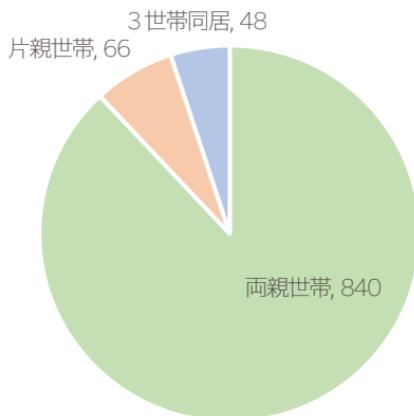
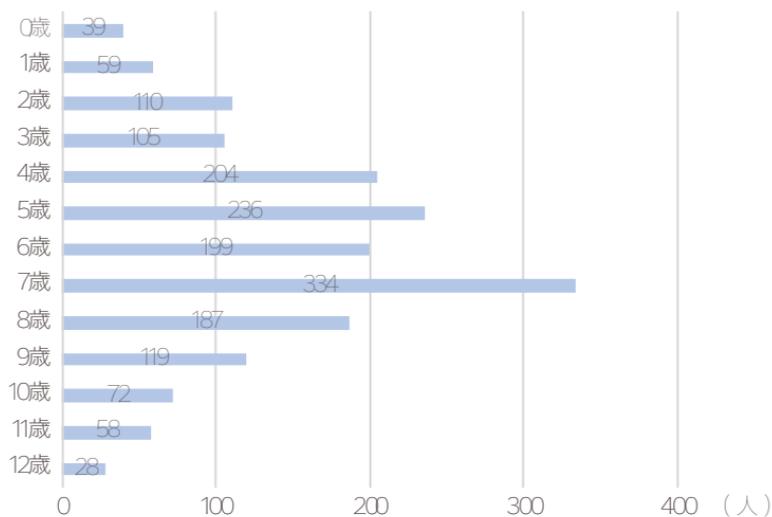
練馬区394件、板橋区560件の回答を得ることができました。

・回答者の居住地と年齢 n=954

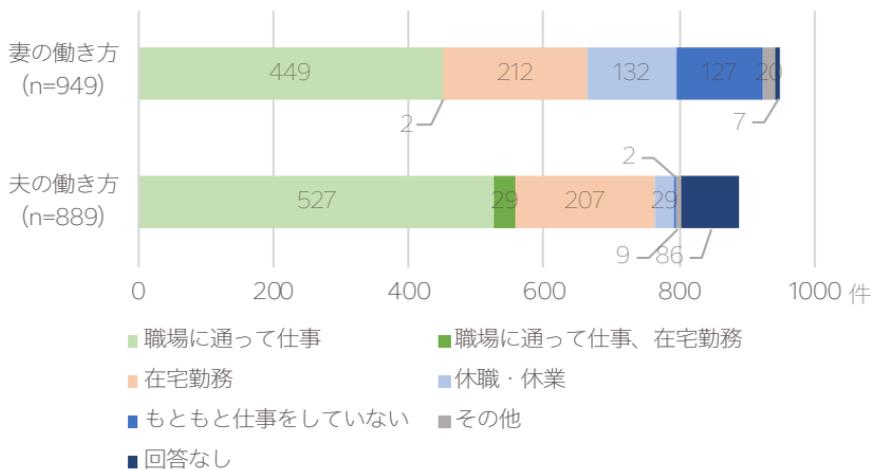


・回答者の住宅形態 n=954



・回答者の家族構成 n=954・回答者の子どもの年齢 n=1760

・緊急事態宣言中の働き方



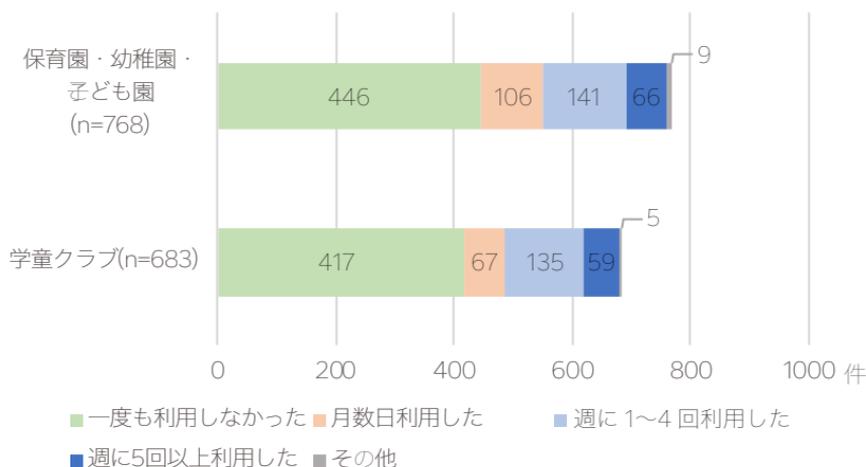
緊急事態宣言中の働き方を妻と夫に分けて集計しました。

妻の働き方を見ると、「職場に通って仕事」が最も多く、449件で5割弱となりました。続いて、「在宅勤務」が212件で約2割、「休職・休業」は132件で約1割、「もともと仕事をしていない」は127件で約1割となりました。

夫の働き方を見ると、「職場に通って仕事」が最も多く、527件で約6割となりました。続いて、「在宅勤務」が207件で約2割、「休職・休業」は29件、「もともと仕事をしていない」は2件でした。

緊急事態宣言が発令されたことで、在宅勤務（リモートワーク）に移行しながらも全体の約半数が出社している状況がわかりました。また休職・休業の状況については男女で大きな差が見られませんでした。

・子ども施設の利用状況



緊急事態宣言中に休園・登園自粛が求められていた保育園・幼稚園・子ども園・学童クラブの利用状況を集計しました。

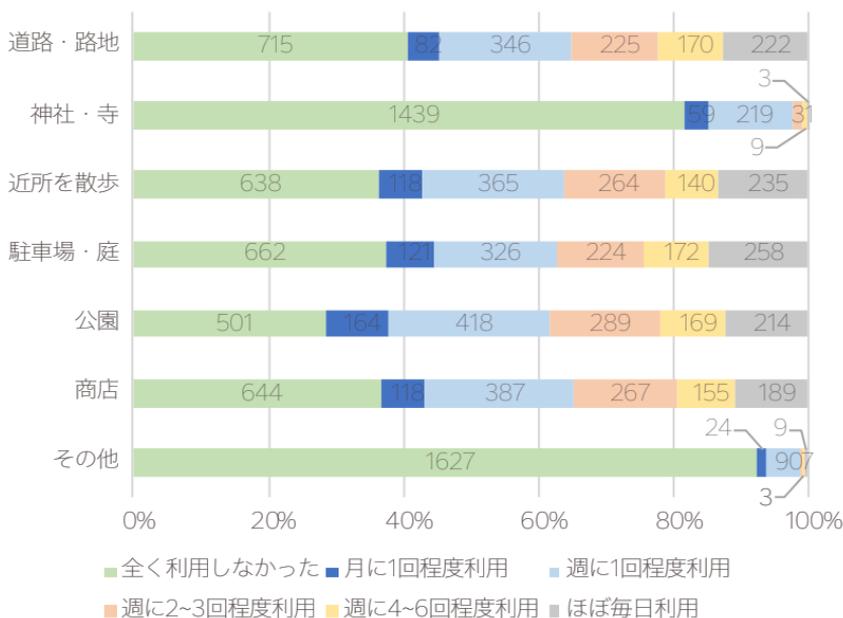
「保育園・幼稚園・子ども園」、「学童クラブ」共に「一度も利用しなかった」が最も多く約6割となりました。

続いて「保育園・幼稚園・こども園」を「週に1~4回利用した」が141件、「月に数日利用した」は106件、「週に5回以上利用した」は66件となりました。

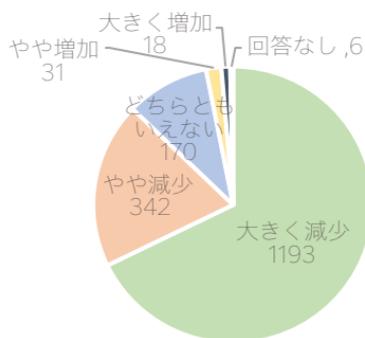
「学童クラブ」は「週に1~4回利用した」が135件、「月に数日利用した」は67件、「週に5回以上利用した」は59人となりました。

いずれの施設においても、多くの方が利用を自粛していたことが分かりました。

・緊急事態宣言中に利用していた遊び場と頻度 n=1760



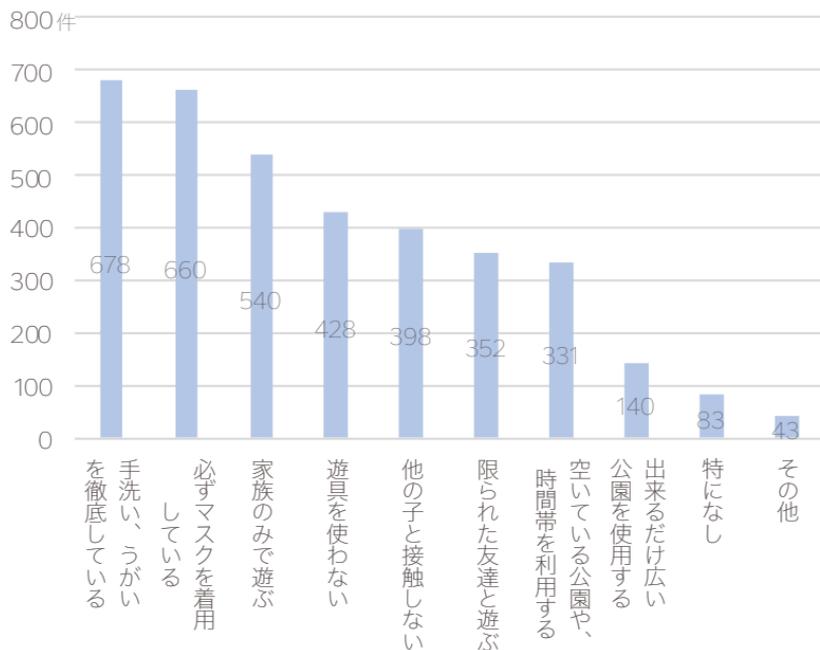
・遊びの頻度の変化 n=1760



緊急事態宣言中に利用していた遊び場と頻度を見ると、約6割が「公園」を、約5割が「道路・路地」「近所を散歩」「駐車場・庭」「商店」を週1回以上利用していました。一方、約3割は公園を全く利用しておらず、外遊びを強く自粛していた世帯の存在が見えてきます。

遊びの頻度の変化をしてみると、外遊びの頻度が大きく減少したという回答が約7割を占めました。

・外遊びの工夫 n=954



外遊びの際に工夫したこと（複数選択可）を見てみると、「手洗い、うがいを徹底している」が最も多く678件、続いて、「必ずマスクを着用している」が660件となりました。感染拡大防止対策への強い意識があったことが分かります。また「家族のみで遊ぶ」（約6割）、「他の子と接触しない」（約4割）、「限られた友達と遊ぶ」（約3割）など、接する相手を制限していた世帯もありました。さらに、「遊具を使わない」（約4.5割）、「空いている公園や、時間帯を利用する」（約3割）、「出来るだけ広い公園を使用する」（約1.5割）など、遊ぶ場所や遊び方についても工夫していたことが分かりました。

外遊びの際の心配・不安

自由記述で得られた「外遊びの際の心配・不安点」について、実際の声を掲載します

感染リスク・衛生面への不安

マスクについて

- 子どもがまだ小さくてマスクができない
- マスクをしていることで熱中症になることが心配
- マスクをつけずに子どもに近づいたり話しかけてくる年配の方がいる など

交通機関

- 密になったり人との接触してしまうので 3 月から公共の乗り物に乗せていない など

- どこで感染するか分からない

公園

- 遊具使用時の密な状況が心配
- 公園利用者が増え密集状態になることが心配
- 公園の遊具からの感染が怖い など

学校等

- 学校や幼稚園が再開され、クラスターが発生しないか心配 など

商業施設

- 子どもが商品など色々な所を触ってしまうことが心配 など

子どもの成長・遊びに関する不安

子どもの成長

- 公園でも警察官に注意され全く運動が出来ず、成長面で不安を感じる
- 友達との付き合いが減り、人見知りになった など

遊び場・遊び方

- 子どもが自由に遊べる場所がなく困る
- 友達と遊ばせてあげたいが、どの程度なら大丈夫なのかわからず遊ばせられない。 など

周囲の目（自粛警察）に対する不安

- 自粛警察に子どもが恫喝や危害を加えられないか心配
- 行き場の無い子ども達に公園で心ない言葉を吐く大人達がいる
- 周りの大人から、子どもの外出がどう見られているか、また何か言われるのではないかと不安
など

外遊びの際の工夫

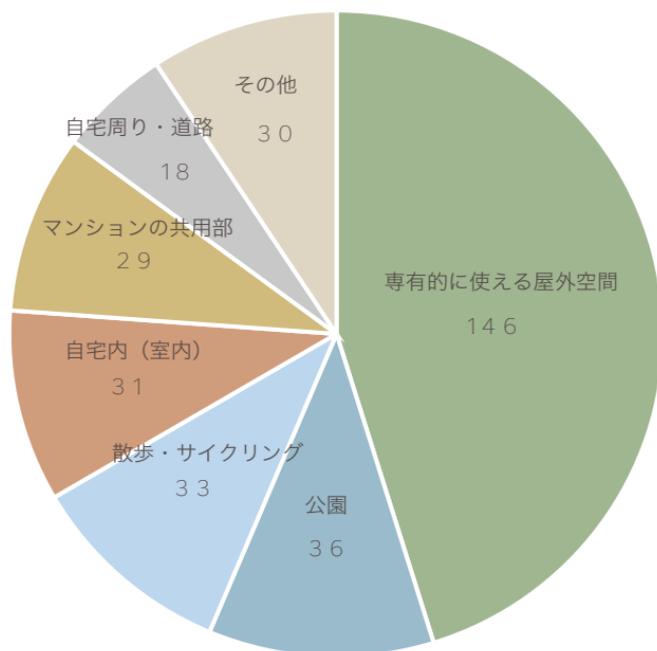
n = 954

自由記述で得られた「外遊びの際の工夫」について、場所ごとに分類して掲載します

専有的に使える屋外空間 ※

- 野外に出る回数が減ったのでベランダでバーベキューなどして外の空気に触れさせるようにした
- 午前中に日光を浴びるように心掛け、ベランダで遊んだり、家庭菜園をした
- ベランダで朝ごはんを食べる、草花や昆虫を育てるなど、室内でも自然を感じられるようにした など

※戸建住宅の場合は、バルコニー（ベランダ）、屋上、駐車場、庭
集合住宅の場合はバルコニー（ベランダ）や一階の場合は専用庭など、世帯が専有的に使う場所を指す



・外遊びの際の工夫が行われた場所分類

自宅周り・公園・道路

- 私道で、近所の子と遊んだ
- 庭や家の前の道路でたくさん遊ばせた
- 向かいに住む年上の子もたちと一緒に遊んでもらったりした など

マンションの共用部

- 雨の日は、マンションの階段を上り下りして運動した
- マンション内の駐車場で縄跳びやシャボン玉など他人と接触しないような遊びをした。 など

自宅内（室内）

- 家の中でもアウトドア気分を楽しめるテントを購入した など

散歩・サイクリング

- 早朝の人が少ない時間に散歩した
- 徒歩での買い物がてら、一緒に散歩へ行った
- これまで行ったことのなかった場所に自転車で行って見たら、途中に様々な新しい発見があった（こんなところに道が！お店が！公園が！！） など

公園

- 遊具を使わない遊びをした
- あまり人がいなさそうな公園や時間帯に気をつけて遊ばせた
- 公園で遊ぶのは30分だけと時間を決めていた
- なるべく公園の遊具など使わないように、ボール遊びや縄跳びをしたり、自転車を購入して練習した など

遊び場を制限すべき

公園

- 子どもに親の望むルールを完璧に守れというのは難しいので接触の多い遊具の使用禁止がちょうど良いと思うなど

道路

- 安全面や騒音から、道路で遊ぶ子どもを減らして欲しいなど



遊び場を充実させてほしい

公園

- 子どもが健康に育つためには、元気に体を動かす必要があり、公園の遊具は必要だと思う
- 遊具の使用禁止、競技場への立ち入り禁止などは、他の場所が混み合う原因になると感じた など

公共施設

- 自粛中、どの公園も混んでいたもので、校庭開放もしてもらいたかった
- 雨の日の遊び場に困ったので体育館を利用できたら嬉しかった など

外遊びのルール

ルールのあり方

- 子どもはルールが多すぎると萎縮してしまうので、手洗いうがいを徹底するなど最低限のルールにしてほしい
- 遊び方が個人判断に委ねられていて、人によって異なるので、統一したルールがほしい など

公園の使い方

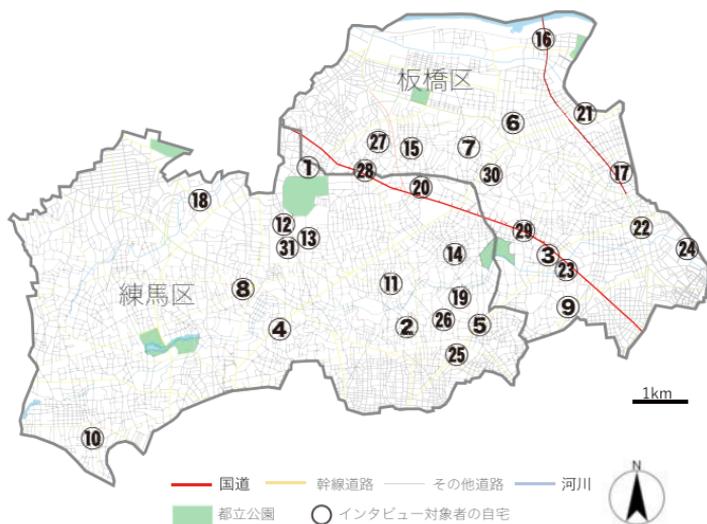
- 小学生の集団が無法状態になっている様子を見かけるので、保護者がついていてくれると有難いと思う事がある
- 遊具や砂場は未就学児優先にするなど、利用人数を減らすべきだと思う
- 公園に小さい子どもから大きな子までいて危険なので、年齢ごとにエリアを分けてほしい
- 水飲み場は使わず、水筒を持参するなどすべき など

周囲の目（自粛警察）

- 子どもの外遊びに対する周囲の大人の理解も必要だと思う
- 子どもが元気に楽しく遊ぶことにも自粛を求める風潮があり、苦情が行きすぎていると感じた など

インタビュー調査結果

インタビュー調査では、アンケート調査の内容をより詳細に把握することを目的に、COVID-19感染拡大前、緊急事態宣言解除後の暮らしの実態を把握することを目的に行いました。地図を用いて、実際にどこでどのような遊びをしていたのか伺いながら調査を行いました。



No.	COVID-19 拡大前	緊急事態宣言中	緊急事態宣言解除後
1* (父・母・子)			
解説	自宅周辺の都立公園、公園、児童館、少し離れた道路・路地を利用している。	自宅周辺の都立公園、児童館などに加え、遠方の自然環境(キャンプ)で気分転換。	学校などの再開により、外遊び自体の機会が減ったが、自宅周辺の都立公園、公園などでは週末に遊んでいる。

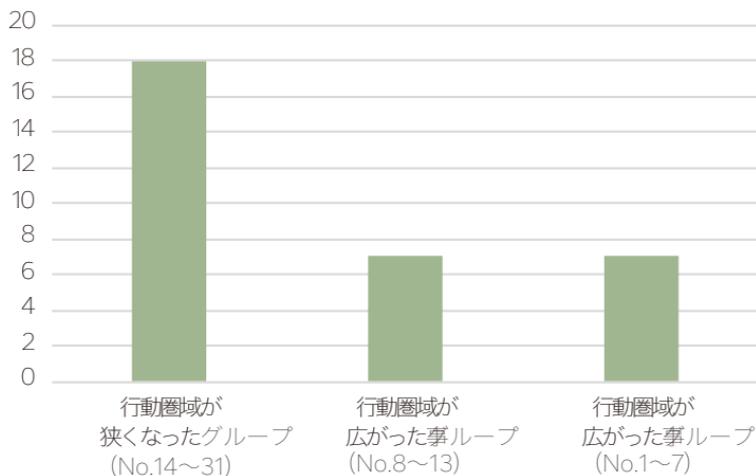
- 凡例
- ★ 自宅
 - ▲ テマパーク
 - 自然環境
 - 屋内施設 (児童館、図書館など)
 - 商業施設
 - 屋内施設 (児童館、図書館など)
 - × 道路・路地
 - D 団地
 - 公園 (M: 都立)
- Legend:
 - 国道 (National Road)
 - 幹線道路 (Arterial Road)
 - その他道路 (Other Road)
 - 河川 (River)

各事例を解説しています。

緊急事態宣言中の外出行動

インタビューの結果、COVID-19拡大前と緊急事態宣言中の子どもの外遊びを中心とした行動圏域の変化のパターンとして、3つのグループに分類できました。

- 1 行動圏域が広がったグループ
緊急事態宣言前に比べて行動圏域が広がったグループ（7事例）
- 2 行動圏域に変化なしのグループ
行動圏域に変化がなかったグループ（6事例）
- 3 行動圏域が狭くなったグループ
緊急事態宣言前に比べて行動圏域が狭くなったグループ（18事例）



COVID-19 拡大前と緊急事態宣言中の行動圏域の変化

1 行動圏域が広がったグループ

行動圏域が広がった事例の特徴として、「車を所有していること」が挙げられます。インタビュー対象者31世帯のうち車を所有している世帯は19世帯でしたが、行動圏域が広がった全7世帯が車を所有していました。車を所有していたことよって密を避けて遠方まで移動できたことが大きかったと言えます。

行動圏域が広がった理由として、
 ①学校や保育園・幼稚園などの休校・休園・登園自粛により生まれた時間を埋めるため
 ②「児童館」の閉鎖や「都立公園」の遊具禁止による遊び方のバリエーションの不足を補うため
 などが聞かれました。こうした理由から、自宅周辺の「公園」に加え、遠方の「商業施設（遠方の施設）」や「自然環境」に外出し、遊びの機会を確保していました。



COVID-19 拡大前は自宅周辺の公園や路地を利用していた。緊急事態宣言が発令され、学校の休校や、習い事の休止で自由時間が増えたため遠方の商業施設や公園に車で出かけ、遊ぶようになった。

2 行動圏域に変化なしのグループ

行動圏域に変化がなかったグループの特徴として、

- ①「都立公園」が自宅から比較的近い(No.8,11)
- ②団地に居住している(No.12,13)
- ③元々自宅周辺で遊んでいた(No.9,10)の3点が挙げられます。

緊急事態宣言中は、自宅近くの遊び場を利用する傾向が全体的に高まりますが、自宅と「都立公園」が近かったり、遊び場が豊富な団地内に居住している世帯、また元々自宅周辺を中心に遊んでいた世帯については、こうした遊び場を継続して利用しやすかったため、行動圏域に大きな変化は生まれなかったと考えられます。



屋内施設の利用は停止しているが、COVID-19 拡大前から利用していたやや遠方の都立公園や自宅周辺の公園の利用を緊急事態宣言中も継続している。



COVID-19 拡大前から利用していた自宅周辺の公園や道路、路地の利用を緊急事態宣言中も継続している。また新たに自宅近くの公園の利用を開始している。



団地内に居住しており、緊急事態宣言中も団地内の公園を引き続き利用している。一方、団地内の大型商業施設の利用を控え、団地外の小規模なスーパーの利用がメインになっている。

3 行動圏域が狭くなったグループ

行動圏域が狭くなったグループの特徴として、

①「都立公園」と自宅が比較的離れていること

②「COVID-19拡大前」に「児童館」を利用していたことが挙げられます。

右頁のグループとは反対に、日頃自宅から離れた遊び場を利用していた世帯は緊急事態宣言によって利用を自粛し、自宅周辺で遊ぶことによって行動圏域が狭くなりました。

また特に低年齢のお子さんを持つ世帯で「児童館」を利用していた場合、こうした屋内施設が閉鎖されたことで行動圏域が狭くなっていたことも分かりました。

No.	COVID-19 拡大前	緊急事態宣言中
15※ 子・父・母・子		

COVID-19 拡大前は、自宅周辺の公園に加え、都立公園も利用していたが緊急事態宣言中は、駐車場の閉鎖などの理由で都立公園の利用を停止し、自宅周辺の公園のみを利用するようになっている。

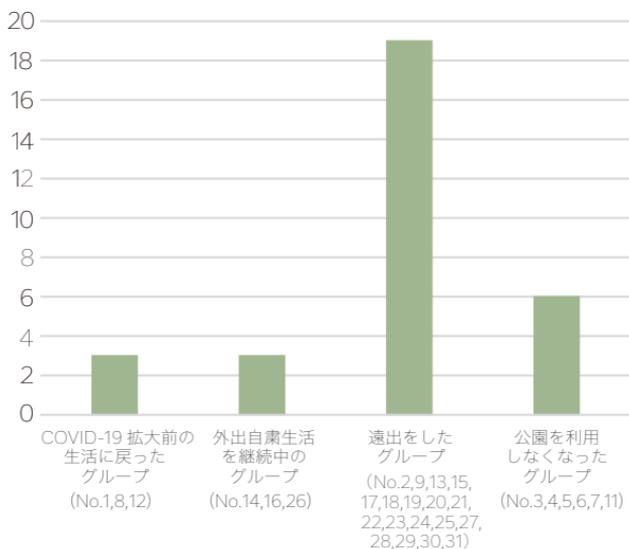
21 子・父・子・母		
---------------	--	--

COVID-19 拡大前は、公園よりも児童館などの屋内遊び施設をメインに遊んでいたが、緊急事態宣言中は屋内遊び施設が閉鎖したことで利用できなくなり、自宅周辺の公園のみを利用するようになっている。

緊急事態宣言解除後の外出行動

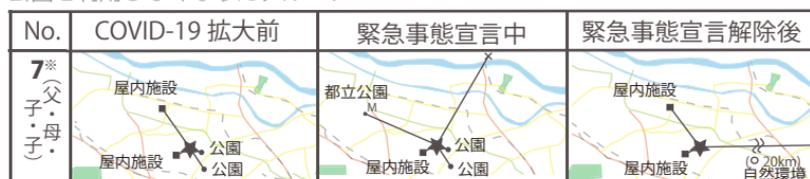
緊急事態宣言解除後の行動圏域のパターンは、以下の4つに分類することができました。

- 1 **公園を利用しなくなったグループ**
緊急事態宣言中に行動圏域が広がった世帯が多く当てはまります。学校や習い事の再開によって自由時間が減少し、外遊びや外出が減っていることが分かりました。
- 2 **遠出をしたグループ**
緊急事態宣言中に行動圏域が狭くなった世帯が多く当てはまります。自粛の反動で遠出した様子が伺えます。
- 3 **外出自粛を継続するグループ**
緊急事態宣言中に行動圏域が狭くなった世帯の中には解除後も引き続き自粛を継続する世帯が見られました。
- 4 **COVID-19拡大前の生活に戻ったグループ**
学校や「児童館」などの屋内遊び施設の再開によって以前の外出の形に戻った世帯も見られました。



COVID-19 拡大前と緊急事態宣言解除後の行動圏域の変化

公園を利用しなくなったグループ



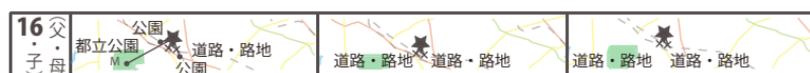
COVID-19 拡大前は公園、児童館などで遊んでいたが、緊急事態宣言中は公園の頻度が増えた。緊急事態宣言解除後は、自由時間が減ったことや、児童館の再開により公園での遊びが減少している。

遠出をしたグループ



緊急事態宣言中は、自宅周辺の道路、路地のみで遊んでいた。緊急事態宣言解除後は、その反動もあり、またこれまでと異なる新しい遊び方をするために、遠方の自然環境（キャンプ）や児童館を利用している。

外出自粛を継続するグループ

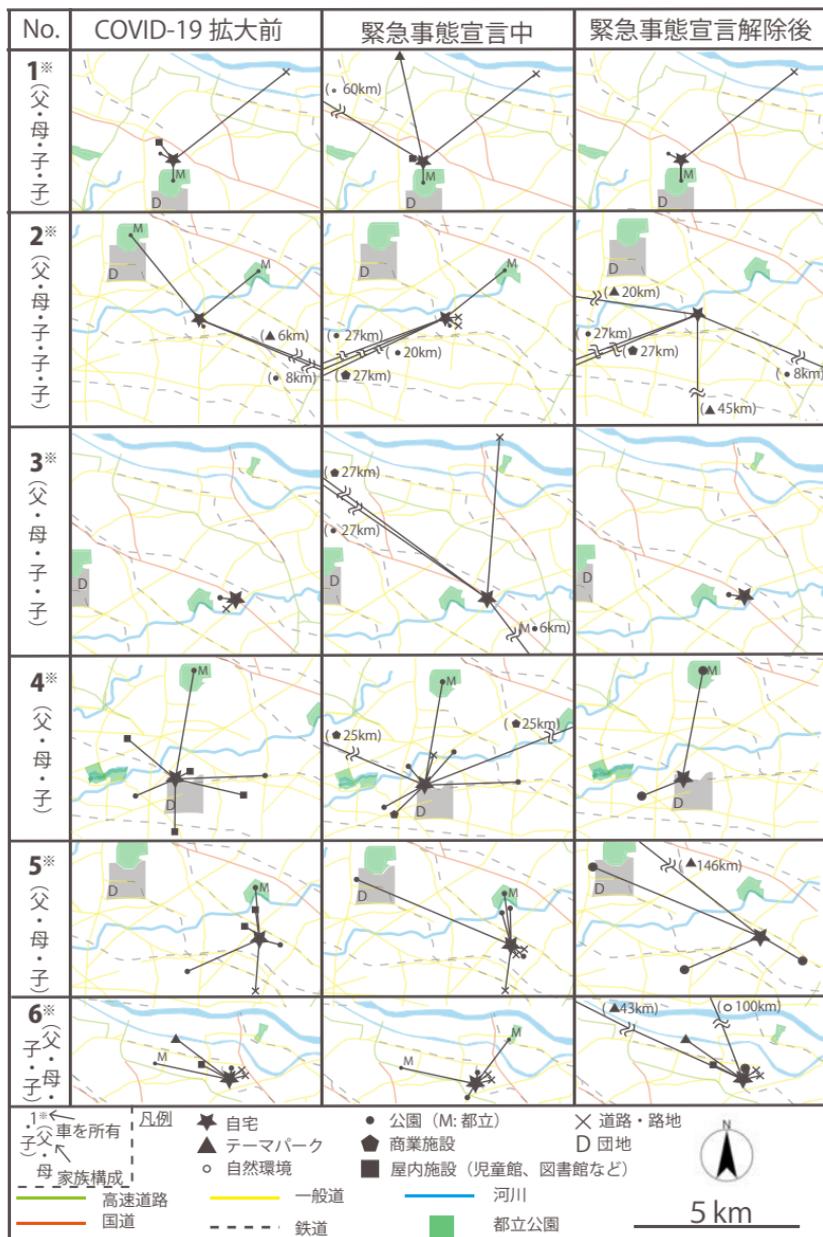


緊急事態宣言中は、COVID-19 拡大前に利用していた公園の利用をやめ自宅周辺の道路・路地のみで遊んでいる。感染リスクも考え、緊急事態宣言解除後も公園での遊びの自粛を継続している。

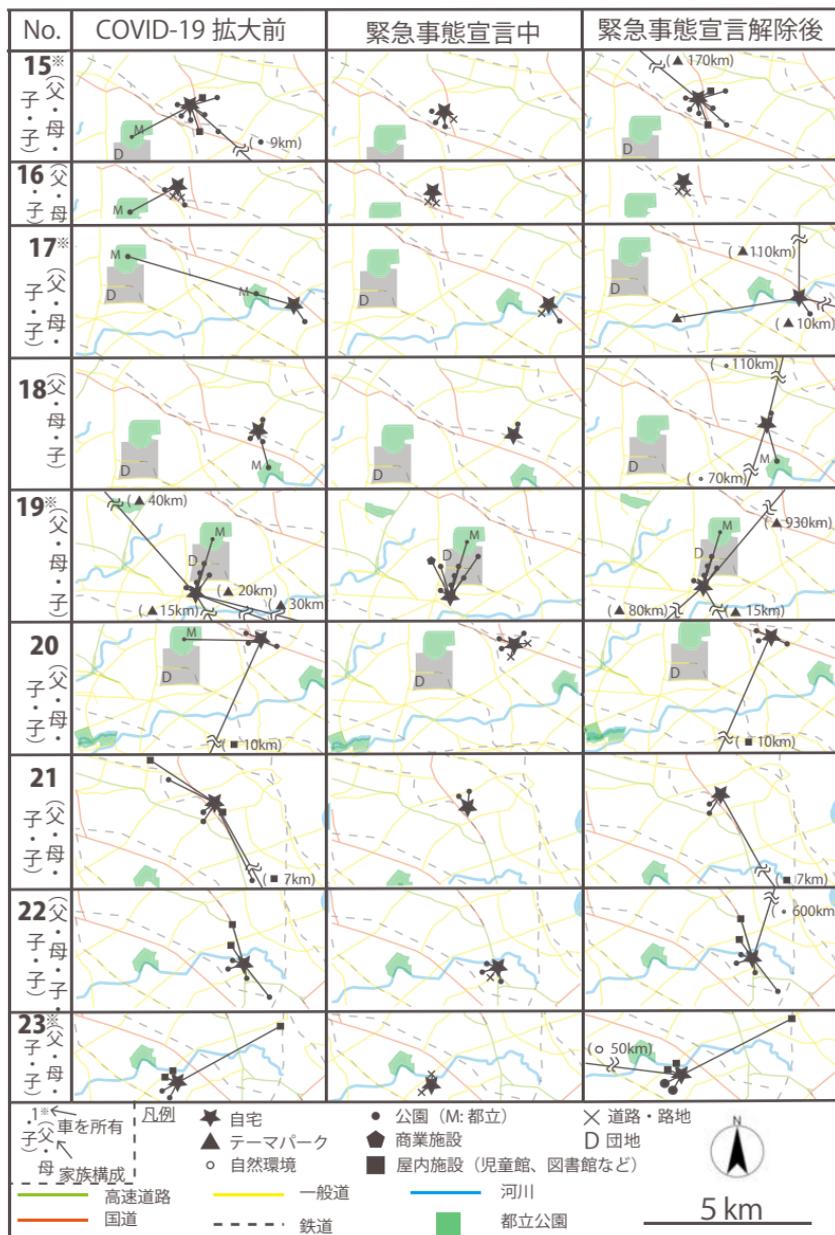
COVID-19 拡大前の生活に戻ったグループ

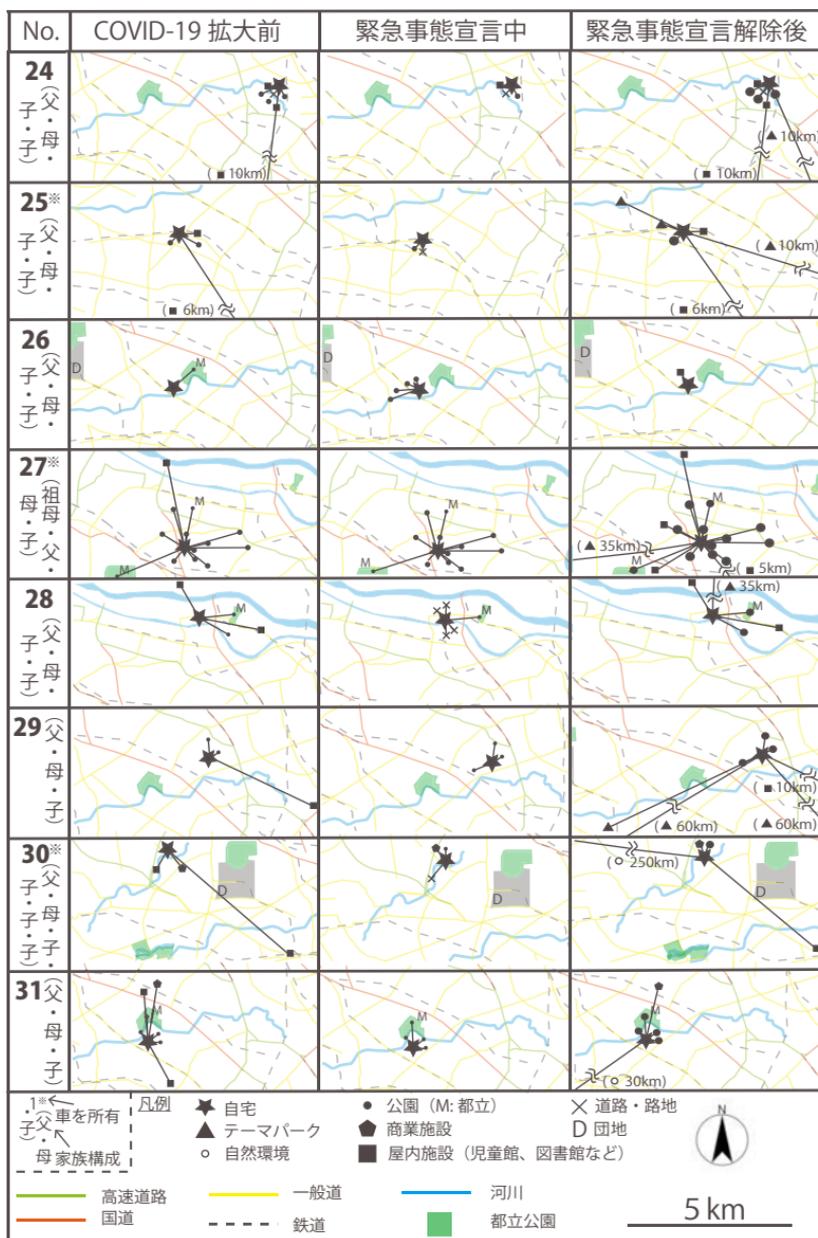


緊急事態宣言中は、児童館が利用できなくなっており、代わりに道路・路地での利用を開始していた。緊急事態宣言が解除され、児童館の利用を再開し、道路・路地の利用は停止している。



No.	COVID-19 拡大前	緊急事態宣言中	緊急事態宣言解除後
7※ 子・父・母・子			
8※ 子・祖・父・母・子・父・子・母			
9※ 母・祖・父・母・弟・祖・母・子			
10父・子・母・子			
11父・母・子・子			
12※父・子・母・子			
13※父・子・母・子			
14子・父・子・母			
凡例	<ul style="list-style-type: none"> ★ 自宅 ● 公園 (M: 都立) × 道路・路地 ▲ テーマパーク ◆ 商業施設 D 団地 ○ 自然環境 ■ 屋内施設 (児童館、図書館など) 		
車を所有する 子・父・母 家族構成	<ul style="list-style-type: none"> — 高速道路 — 一般道 — 河川 — 国道 — 鉄道 ■ 都立公園 		

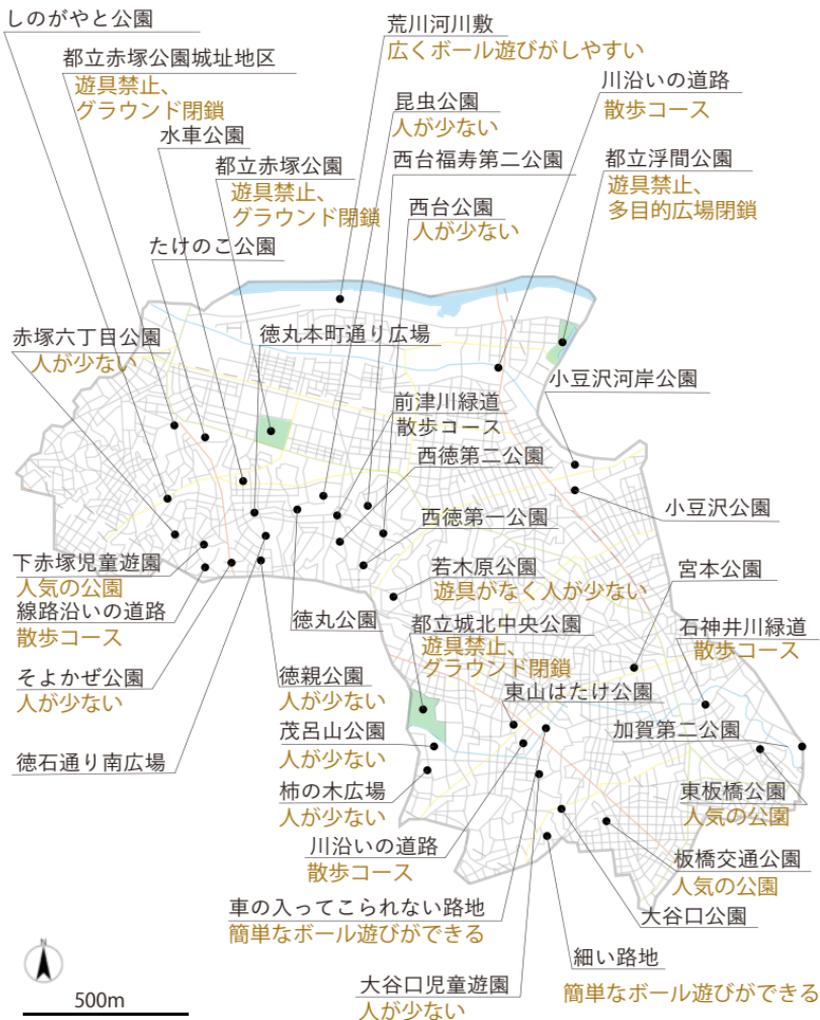




緊急事態宣言中に利用された遊び場

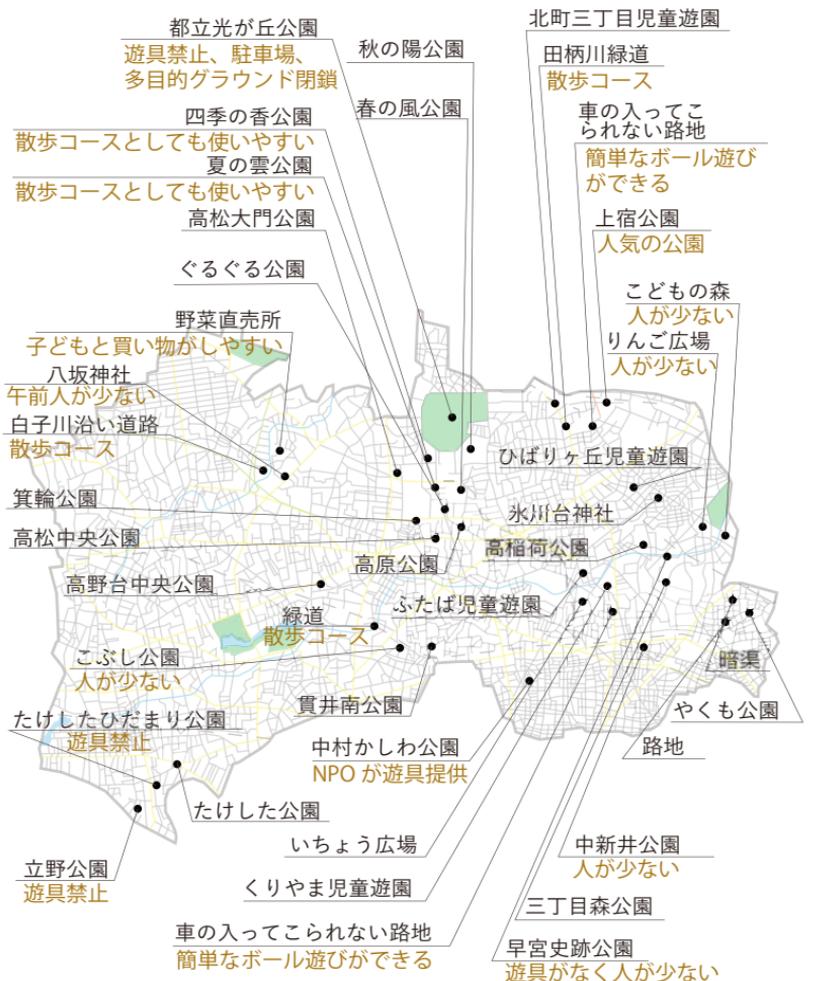
緊急事態宣言中に利用された外遊びの場と、各あそび場に対するコメントを掲載しました。

板橋区



500m

練馬区



- 高速道路
- 国道
- 一般道
- - - 鉄道
- 河川
- 都立公園
- 実際に利用された遊び場